様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　６月２３日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：２００７～２００９
課題番号：１９７３０３９４
研究課題名（和文）　ネットワーク境界の共有性が個々の関係での葛藤解決過程に及ぼす影響

研究課題名（英文）　The effect of network overlaps on process of resolving conflict in any one of network relationships.

研究代表者　相馬　敏彦（SOUMA TOSHIHIKO）
川口短期大学・准教授
研究者番号：６０４１２４６７

研究成果の概要（和文）：ソーシャル・ネットワークの共有性が二者間での葛藤解決過程に影響する過程を検証した。その結果、第一に、ネットワークの共有性が高いほど相手からの否定的言動を相手への評価に反映させないことが示された。第二に、独自ネットワークサイズは自己志向的な対処行動を、共通ネットワークサイズは他者志向的な対処行動をそれぞれ独自に促進することが示された。総じて、問題の潜在化にネットワーク構造が影響することが実証された。

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007　年度	1,200,000	0	1,200,000
2008　年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009　年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	630,000	3,930,000

研究分野：社会心理学
科研費の分科・細目：心理学・社会心理学
キーワード：ソーシャル・ネットワーク、対人関係、対人葛藤、葛藤対処、ネットワーク密度、社会的相互作用

１．研究開始当初の背景

個人のもつ態度や行動が周囲のソーシャル・ネットワークによって規定されることは既に多くの研究で明らかにされてきた。それらの研究では、概して、人はネットワークを通じて入手した情報を準拠枠として、さまざまな社会事象を判断し行動することが示されている（e.g. Burt, 1992;Coleman,1990）。いうまでもなく、人はこのようにネットワークから影響されるばかりではなく、他方で主体的に個々のネットワークを構成し管理するという能動的な側面を合わせもつ。とすれば、その能動的な影響過程と受動的過程とにはどのような関係性がみられるだろうか。とりわけ、ネットワークへの関わり方そのものはネットワークの構成によってどのように影響されるのだろうか。従来の研究は、これらネットワーク構造が個々の関係の安定化にもたらす効果についての検討が不十分であった。

そこで、本研究ではネットワーク内の個々の関係での葛藤対処方略に焦点をしぼり、それがネットワーク構造によってどのような影響を受けるのかについて検討した。

２．研究の目的

対人関係において葛藤や対立が生じても、被害を受けた当事者が問題解決に向けた行動をとらず当事者によって問題が潜在化されることがしばしばある。本研究はこの対処

の生じない過程が葛藤の生じた関係外の対人ネットワークの構造によって影響される可能性を追求するものであった。

具体的には、パーソナル・ネットワーク境界の共有性（あるいは独立性）が個々の関係での葛藤解決における以下の二つの段階それぞれに影響する過程を実証的に検討することを目的とした。

(1) 定義の段階について

ここでは責任判断に関する問題として捉え、二者間で生じた葛藤の責任が自身か相手のいずれかにあると判断するのか、あるいは他の要因に帰属されるのかに焦点をあてて検討した。

(2) 対処の段階について

自己志向的な対処と他者志向的な対処の独立した二次元において対処行動を捉えたThomas et al.（1975）の枠組みを援用し検討を行った。

３．研究の方法

以下の４つの調査データを用いて、上記の目的について検証した。

ルームメイトペアを対象とする横断調査とパネル調査では、日常生活において相手との間で生じる問題をどのように認識し対処するのかに対して、ネットワークの共有性が及ぼす影響を検証した。次の夫婦ペアデータを含めて、二者間での相互作用をつぶさに観察するためペアデータを用いた。

夫婦ペアを対象とする調査では、相手からDVとも捉えられる言動を受けた場合に相手への低評価をもたらす要因としてネットワークの独自性の効果を検証した。

夫婦関係にある中年女性を対象とする横断調査では、関係への特別観のもつ非協調的行動の抑制を調整する変数としてのネットワーク共有性の効果を検討した。

４．研究成果

得られた知見は大別して次の２点に整理できる。

(1) ネットワークが葛藤の定義に及ぼす影響

関係の相手から否定的言動を受けた者が相手の言動を不当なもの（正当性が低い）と判断し相手への評価を下げるかどうかに対して、関係外ネットワークの共通性が及ぼす影響を検証した。

ルームメイトペアを対象とするパネル調査では、①ネットワークが共通しているほど周囲には葛藤時に仲裁者となる他者が多いと認知しやすいこと、②共通性の高さによって相手から否定的な言動を向けられた場合でも相手の態度を不当なものだとは判断せず、逆に正当化することが示された（図1）。

また、夫婦ペアを対象とする調査では、関係の相手と共有しないネットワークを多くもつ者は、相手から否定的な言動を受けるほど相手に対する肯定的評価を低下させることが示された（図２）。

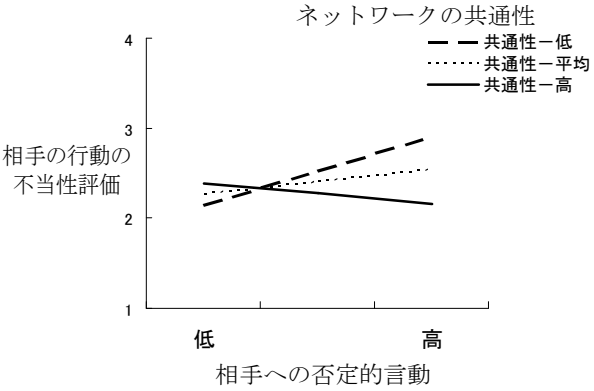

図１ 相手の行動の不当性評価に及ぼすルームメイトによる相手への否定的言動と回答者ネットワークの共通性の効果

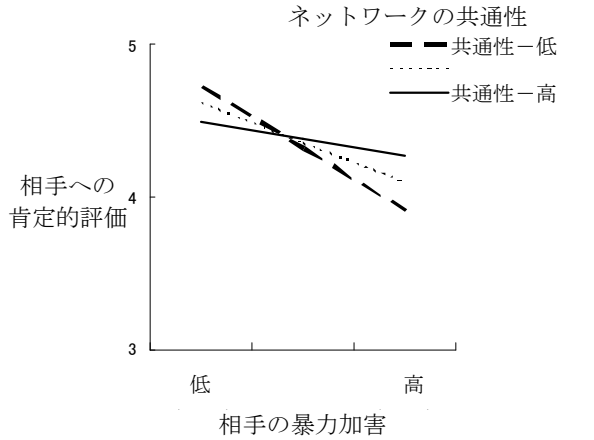

図2 夫婦関係における相手からの暴力加害とネットワークの共通性が相手への肯定的評価に及ぼす影響

(2) ネットワークが対処に及ぼす影響

ネットワークの共通性が、関係内での葛藤対処に及ぼす影響を検証した。

ルームメイトペア対象のパネル調査を実施し、ネットワークの共通性と独自性それぞれの効果そのものの独立性について検討した。結果、独自ネットワークサイズは自己志向的な対処行動を、共通ネットワークサイズは他者志向的な対処行動をそれぞれ独自に促進することが示された（図３）。

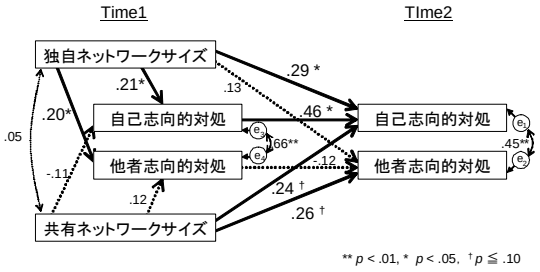

図３ 独自・共有ネットワークサイズが対処行動に及ぼす影響

また、夫婦関係における相互作用過程を調整する変数としてネットワーク共通性に注目した検討では次のことが確認された。①かけがえのなさを基盤とする関係では必要に応じた相手への非協調的行動を抑制されるが、②ネットワーク共通性の低さはこの影響過程を調整し、共通性が高い場合特に①の影響が顕著である。

以上の結果は、ネットワーク構造が個々の関係の安定化にもたらす多面的影響を明らかにしており有用な示唆をもつといえよう。

中でも、ネットワーク境界の共有性が個々の関係での葛藤解決の対処のみならず「定義」にも影響する点は独創的なものだといえる。従来の葛藤研究は対処過程に焦点を向けがちであったためである。

“モラル・ハラスメント”に対する社会的な関心の高まりにみられるように(Marie-France,1999)、近年、親密な関係や職場での関係など個人のもつさまざまな関係において、それが時として当事者に深刻な悪影響をもたらしうることが指摘されている。そして、その背景として問題を抱えた関係に関わる人々には共通して“当事者であること”(当事者性)の認識が希薄であり、そのため問題が長期にわたって深刻化しやすい可能性を論じるものがある(例えば、信田,2002)。

本研究は、この論考の妥当性について実証的な立場から裏づけを与えるものであり、個々の関係で生じる葛藤や対立が深刻化しないための予防的枠組みの提供に寄与するものである。例えば、親密な関係においてはしばしば、その相手からの暴力を受けながらも関係自体を魅力的なものとして認識する事例が報告されている。葛藤の被害者となる側によって問題が潜在化されてしまう可能性があるというのである。本研究課題で得られた知見はそのプロセスがネットワークの共有性によって生じうる点を示した。

このように本研究の結果は、なぜ虐待やいじめの問題が潜在化しやすいのかという問題に一つの答えを提供するものであり、臨床や教育の現場などさまざまな領域において高い応用可能性をもつことと期待できる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計　３　件)

① 木村友香・相馬敏彦　愛着関係のもつ二つの機能－“安全基地”と“安全な避難所”－　東亜大学臨床心理学研究第８巻１号　11-16 頁　2009 年　査読無し

② 相馬敏彦・浦光博　親密な関係における特別観が当事者たちの協調的・非協調的志向性に及ぼす影響　実験社会心理学研究　49 巻 1-16 頁　2009 年　査読有り

③ SOUMA Toshihiko, URA Mitsuhiro, ISOBE Chikae, HASEGAWA Koji, & MORITA Akiko 2008 How do shy people expand their social networks?:Using social surrogates as a strategy to expand one’s network. Asian Journal of Social Psychology. Vol.11 Pp. 67-74. 2008 年　査読有り

〔学会発表〕(計　６　件)

① SOUMA Toshihiko Moderating effect of romantic partners’ overlapping networks on the relationship between the perceived distinctiveness of their relationship and an uncooperative orientation. The 11th Annual Society for Personality and Social Psychology Meeting 2010 年 1 月 28 日 Grande Ballroom of the Riviera Hotel, America

② 相馬敏彦　ネットワークを“共有すること”は　“共有しないこと”の裏返し？－葛藤対処に及ぼす共有ネットワークと独自ネットワークの機能的独立性－ 第 50 回日本社会心理学会大会・第 56 回日本グループ・ダイナミックス学会大会合同大会 2009 年 10 月 10 日 大阪大学

③ SOUMA Toshihiko The effect of network overlaps on roommates’ perceived legitimacy with regard to conflicts. The 29th International Congress of Psychology 2008 年 7 月 23 日 Internationals Congress Centrum ICC Berlin, Berlin, Germany

④ 相馬敏彦　相手の言動の不当性評価に及ぼすネットワーク共通性の影響　第 55 回日本グープ・ダイナミックス学会大会 2008 年 6 月 15 日　広島大学

⑤ SOUMA Toshihiko When commitment does not promote forgiveness: The effects of approach and avoidance commitment on forgiveness. The 7th Conference of the Asian Association of Social Psychology 2007 年 7 月 27 日 Magellan Sutera Harbor, Malaysia

⑥ 相馬敏彦・具志堅伸隆・上田真由美　傷つけられても素敵な人？－間接的暴力をもたらす相手への評価に及ぼす外部ネットワークの共通性の効果－　第 54 回日本グープ・ダイナミックス学会大会 2007 年 6 月 17 日　名古屋大学

〔図書〕(計　５　件)

① SOUMA Toshihiko(Joan, C. Toller (Ed.)) Nova Science Publishers Friendships: Types, Cultural Variations, and Psychological and Social Aspects 2010

年

② 相馬敏彦（相川充・高井次郎編）　誠信書房　講座現代の社会心理学第２巻コミュニケーションと対人関係　2010 年 200～210 頁

③ 相馬敏彦（高木修監修・安藤清志編）　北大路書房　シリーズ２１世紀の社会心理学１３　自己と対人関係の社会心理学：「わたし」を巡るこころと行動　2009 年 66～78 頁

④ 相馬敏彦（金政祐司・大竹恵子編）　北樹出版　健康と暮らしに役立つ心理学 2009 年　93～102 頁

⑤ 相馬敏彦（加藤司・谷口弘一編著）　北大路書房　対人関係のダークサイド 2008 年　132～144 頁

６．研究組織

(1)研究代表者

相馬　敏彦（SOUMA TOSHIHIKO）

川口短期大学・准教授

研究者番号：６０４１２４６７

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：